

## 被災子ども支援部門

### ふくしま子ども支援センター うつくしまふくしま子ども未来応援PJ

### 中期目標について

2015. 1. 27

### 被災子ども支援部門 中期目標 ～2017年(平成29年)を目指して～

- ・震災後の子どもや子育て世代を取り巻く課題の解決までにはまだ時間がかかる。

(県外避難、仮設住宅の解消、避難先から戻ってきた子育て世代のケア)



- ・課題が解決するまで、現在の支援を途切れさせないような事業展開と事業実施に努める。
- ・被災者、避難者の声、福島で子育てをしている子育て世代のニーズや声を地道に拾いながら、事業・支援に反映していくとともに、必要な情報の発信や提言をしていく。

- 震災を契機にして見えてきたが、震災が原因とだけは言えない従来からの課題が見えてきた。
- しかしながら課題解決のための視点やリソースが不足している。



・震災後の課題か震災前からの課題かという点での違いはあるものの、これからの福島の子育て環境を新たに創造していくためには、両方を解決していける取り組みが必要になっている。

被災子ども支援部門は、東日本大震災および福島第一原発事故によって環境の変化、生活や健康への不安、県内外への避難を巡っての課題などによって影響を受けた、福島の子どもや子育て世代が必要とする支援を行うとともに、その環境を回復させるためのさまざまな取り組み(直接支援・間接支援)を行う部門として誕生した。

しかし、震災から3年半経過した現在でも、状況に少しずつ変化はありつつも、最終的な課題の解決の見通しはたっており、これからも支援が必要な状況は中期的(おおよそ3年後)も変わらないと想定される。

またこれまで続けてきた支援の中で、震災を契機に見えてきたが震災が原因とだけは言えない課題も見えてきている。

原因の如何を問わず、今後の福島の子どもの育ちや環境も含めた復興や地域の在り方を考えたときに、課題に実際に取り組むとともに、俯瞰して見る位置にあった私達は、新しい福島の子育て環境の創造に結び付く取り組みをモデル化し持続可能な形にしていくことが求められている。

以上のことに鑑み被災子ども支援部門として

①その中でこれまで行ってきた支援(ふくしま子ども支援センター事業・うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト)を継続しながら、途切れさせないような事業展開と事業実施に努める。

②これからの福島の子育て環境の創造に結び付くための取り組みとして、子どもや子育て世代の多様なニーズに対応可能な地域の子育て拠点のモデル化をはかり、そこをベースにしながらかつさまざまな課題の解決に努めていく。

③震災後の支援活動の中で蓄えた知見や築いたネットワークは、福島の子ども・子育ての環境づくりに大きく貢献するものであるとともに、行政・民間団体も含めて相互に活用できるハブや中間支援の役割を担うことによつてさらなる価値を増していく。そうした視点を持ちながら福島全体の子育て環境の底上げにつなげていく。

うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト	
平成26年度の取り組み	<b>県北の活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行3仮設の支援継続(安達・しのぶ台・佐原)</li> <li>・参加率の減少に対して対策</li> <li>・引き続きの人材確保・ビーンズハウス(ボランティア宿泊施設の活用)</li> <li>・浪江小放課後支援の本格化</li> <li>・第4の仮設(笹谷東部)の支援開始</li> </ul>
	<b>県中の活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の活動の持続(おたがいさま、三春の里の継続)</li> <li>・福川原支援の終結に向けての動き</li> <li>・富岡町教委との話し合い(不登校の子の個別支援、教委施設の活用について)</li> <li>・新事務所(拠点)探し</li> <li>・次年度スタッフ体制の確立と育成</li> </ul>
平成27年度以降の取り組み	<b>中期・全体で取り組むこと</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興公営住宅への移行や帰還に関わって、平成27年・平成28年まで仮設住宅が解消されることはないので、引き続き現行の支援を続けていく。</li> </ul>
	<b>県北</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笹谷東部仮設・南矢野目仮設など福島市北部での支援の定着化と「みんなの家」との連携・誘導をはかりながらの支援の拡充</li> <li>・仮設住宅と復興公営住宅を結んだり、コミュニティを結ぶための支援の在り方を模索。(しのぶ台・佐原地区、安達地区)</li> <li>・避難地域の学校(浪江小等)と連携したケアプログラムや文化活動等の実施で地域の教育支援機関としてのノウハウの蓄積・プログラムの開発</li> <li>・個別化する課題に合わせた支援の在り方も模索。(不登校対策、アウトリーチ・訪問等、こころの相談室との連携)</li> </ul>
	<b>県中</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三春町に避難している、富岡のコミュニティ・子どもの繋がりを絶やさないような支援の継続。</li> <li>・郡山市に関しては、新拠点を中心に、被災した子ども、郡山の地域の子どもが集える場所の創設を目指し、学校外での居場所・放課後支援、学習活動・文化活動を行ったり、不登校や貧困による困難への支援等、子どもが必要とするスペシャルニーズにも対応できるような、アウトリーチ・ソーシャルワーク機能の育成。</li> </ul>

ふくしま子ども支援センター	
平成26年度の取り組み	<b>基本的な実施事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業の確実な実施。</li> <li>【県外】県外連携先ならびに訪問要請先への訪問ならびに情報の収集と次年度を見越した関係の整理と計画づくり。</li> <li>【県内】県内連携団体と相互研修等の実施によるノウハウ交換・育成によって、各地域の支援力アップ。</li> <li>【研修】残りの研修の着実な実施と、研修事務局ノウハウのまとめ(マニュアル化)</li> <li>【専門職】今年度実施事業の着実な実施と、次年度派遣計画のためのニーズ把握・精査と早めの調整の開始</li> <li>【情報支援】経ネット、既存サイトの安定的な運営、新規事業に係わるサイトの構築</li> </ul>
	<b>全体ビジョン</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業の継続的な実施を行いながら、実績と信頼関係づくりに取り組む(県・市町村・連携団体)</li> <li>・委託事業を実施している中で、状況や課題の変化を事業に反映させていく。</li> <li>・これまでの事業からワンステップ先の新しい支援にも取り組む(研修で育成したスタッフの専門職としての派遣、ニーズ調査・ストレス調査等に基づいた企画提案講座の実施等)</li> <li>・委託事業が終了したとしても、自主事業として社会のニーズを捉えた形で事業化、何らかの後継事業ができる形で地域内・法人内にノウハウを残していく。(それだけの力量を持つ)</li> </ul>
平成27年度以降の取り組み	<b>直接支援(県外・県内)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【県外】継続して定期的な訪問を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難者のいる地域にも細かく訪問、新しいつながりも丁寧に、少数派になっているから相談・訪問の充実を</li> <li>・避難者の個別性に対応できる対応力の向上と繋ぐ力の向上。</li> </ul> </li> <li>【県内】連携団体・協力団体との関係を密にしながら現行支援の継続と、ノウハウ移転しながらそれぞれの地域で継続的な母親のケアの場と居場所が根付くようにしていく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなの家」や「はみんぐBird」のような活動が各地に広がるような種まきと育成。</li> </ul> </li> </ul>
	<b>間接支援(専門職派遣、研修、情報支援)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【専門職派遣】・頼られる、便利な人材バンク(褒め言葉として捉える) <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の支援専門職の把握・ゆるやかな組織化(登録)</li> <li>・時期の変化に対応した、子ども支援・子育て支援の人材紹介・派遣ニーズに応えられるように(県だけではなく市町村から委託?)</li> <li>・県に戻していくものに関しては、蓄積したノウハウ・システムを整理して円滑な事業につながるようにする。</li> </ul> </li> <li>【研修】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の支援者の支援力アップと子育て支援の基盤強化</li> <li>・ビーンズ内で研修講師ができるようなエースを複数名育てる(委託終了後に組織内の支援力アップや自分達での研修実施ができるように)</li> </ul> </li> <li>【情報支援】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難者向け、県内子育て家庭向けの支援情報をきめ細かく配信しながら、県・市町村の取り組みを間接支援しつつ、県・市町村に対しての実績づくりと信頼関係の構築。</li> <li>・福島で子育てをしているママへの支援コンテンツの一環として残るものにしていく。</li> </ul> </li> </ul>
	<b>みんなの家</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島市の子育て支援拠点としてモデル的取り組みをしていく。</li> <li>・子育てでひろばとしての実績をつくり、福島市からの事業委託として継続運営できる体制を目指す。</li> <li>・ままカフェと連携した出前カフェの実施</li> <li>・「うつくしまふくしま子ども未来応援PJ」とも連携した地域の子どもの居場所づくり。</li> <li>・避難した、避難しなかったに関わらず、地域の子育て応援とつながりの拠点として続けていく。</li> </ul>